

きんもくせい

病院だより

vol.103

令和3年
12月号

シリーズ がんと闘う 住みなれたこの場所で ロボット支援手術を牽引 泌尿器科の前立腺がん手術とこれから



▲泌尿器科医師 柿沼医師、松本医師、秋医師、鈴木医師(左から)

新時代の治療、ロボット支援手術。男性の部位別がん罹患数の第1位である前立腺がんに対して、当院では2017年から手術支援ロボットによる手術を行っています。

さて、前立腺がんになりやすい人にどのような特徴があるかご存知ですか？前立腺がんは、年齢、遺伝、食生活の欧米化が大きく関係していると言われていています。前立腺がんは60歳から増え始め、70歳以上が最も多くなります。家族が前立腺がんにかかったことがある人、牛肉、牛乳、卵、チーズなどの動物性脂肪を取りすぎる人はリスクが高まるとされています。前立腺がんのリスクを抑えるために、積極的に定期健診を受け、野菜や大豆製品を食事に取り入れてみましょう。

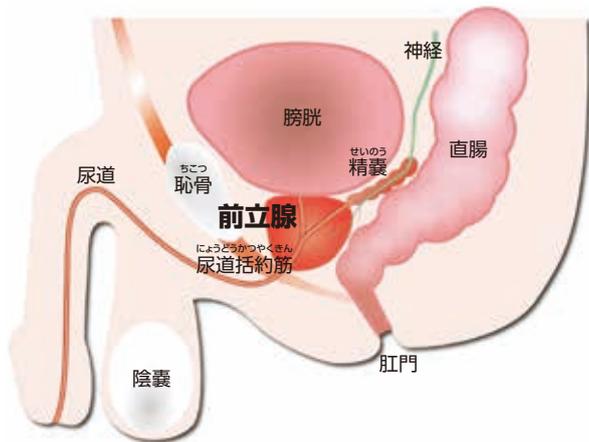
今や男性の平均寿命、世界第2位の日本。“シリーズがんを闘う 住みなれたこの場所で”第5弾では、長寿国日本にとって、他人事ではない泌尿器科領域のがん治療について特集します。

泌尿器科領域におけるロボット支援手術 ～現状と展望～

泌尿器科診療部長 **松本 力哉** 医師

はじめに

泌尿器科領域におけるロボット支援手術は限局性前立腺がん（前立腺内にがんがとどまっているタイプ）に対するロボット支援下前立腺全摘除術（RARP：Robotic-assisted radical prostatectomy）が2000年に報告され、米国を中心に急速に普及しました。日本でも2012年に他科に先駆けて泌尿器科領域の手術であるこのRARPが保険適応となり、急激にロボット導入施設及び症例数が増加しました。後にもご報告しますが、他科での適応疾患が増えてきている現状でも泌尿器科の手術支援ロボット「ダヴィンチ」の利用と実績がもっとも多くあります。その理由は、泌尿器科で取り扱う前立腺や膀胱のような臓器は、骨盤内の狭い空間にあるため、ロボットの特性を活かせることが関係しているからと言われています。ダヴィンチについてはこれまでのきんもくせいでも記載があり、直近9月号で相場先生が詳細に説明してくださっているので、ぜひご覧ください。



▲前立腺は男性にしかない臓器。前立腺液といわれる精液の一部を作り、精子に栄養を与えたり、精子を保護する役割を持っている。前立腺は膀胱の出口、尿道の始まりの部分を取り囲み、クルミくらいの大きさをしている。

現状

泌尿器科領域では、前立腺がんに対するRARPの他に膀胱がんに対するロボット支援下膀胱全摘除術、腎がんに対するロボット支援下腎部分切除術さらには尿管狭窄に対するロボット支援下腎盂形成術が保険適応となっています。

当院では2016年に私が赴任してから、ダヴィンチ導

入に向けて準備を進め、2017年2月からRARPを開始しました。これまでに140件以上の同手術を行い、主な合併症である尿失禁（半数以上の方が術後半年で尿取りパット不要）や出血（輸血頻度は3%未満）に関しても、開腹手術に比べて格段に良いものと実感しております。また、ロボット支援下膀胱全摘除術は、ロボット支援下腎部分切除と共に“保険診療の敷居”が高く（年間に行わなければならない最低手術件数が規定されている）、現在は行えない状況となっていますが、これまでに5件の手術を行っています。

一方で、泌尿器科以外のロボット支援手術が続々と保険適応に追加されており、胸部手術では縦隔腫瘍、肺がん及び食道がんなど、腹部手術では胃がん、直腸がん及び子宮がんなどがロボット支援手術の保険適応となっております。今後は当院でも、胃がんや子宮がんでのロボット支援手術の導入も検討中と聞いています。



▲ロボット支援手術の様子

今後の展望

来年度には、腎盂尿管がんに対する腎尿管全摘や腎がんに対する根治的腎摘除術もロボット支援手術の保険適応となることが見込まれております。“保険診療の敷居”が低く当院でも早期に導入が可能となることが期待されます。

また、これまでは国内の手術支援ロボットについては、インテュイティブサージカル合同会社のダヴィンチの独占市場でしたが、川崎重工業が開発に加わった純国産の手術支援ロボット『hinotori』が発売となり、価格もダヴィンチの半分以下で、かつ、ロボットアームの可動性もさらに向上しているとの評判で、普及が見込まれています。

最後に当科でのロボット支援手術の今後としましては、来年度の新規保険適応の状況を確認しつつ、前立腺全摘以外の術式も取り入れていければと考えています。ロボット支援手術含め、中東遠地域の皆さまに安全・安心な医療を提供できるよう引き続きスタッフ丸となって精進していきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



もっと知りたい！ ロボット支援手術

きんもくせいの令和3年9月号で、外科の相場医師がロボット支援手術とそのメリットについて分かりやすく解説しています。ぜひご一読ください。



▲詳しくはこちら

5病院でさらなる連携を 医療連携及び協力に関する協定を締結

10月4日、袋井市役所で中東遠5病院の病院長と関係市町の首長が集まり、医療連携及び協力に関する協定を取り交わしました。

静岡県が医師の少ない地域であることをご存知ですか？2018年の統計ですが、静岡県の医師数は都道府県で41番目に少なく、さらに中東遠圏域は、県内の8の医療圏域の中で7番目の少なさです。

新型コロナウイルス感染症による医療体制の危機を受け、乏しい医療資源の中で、医療連携と協力を図る必要性を改めて強く認識したことが、今回の協定締結に至った経緯です。今後は、救急医療、小児・周産期医療、災害時医療、感染症医療、医療従事者派遣等の医療面での連携・協力や症例検討会、合同研修会などの技術向上や相互理解を深めるための学術交流・職員研修など幅広い分野で連携強化が図られます。

宮地企業長は、「今回の協定を結ぶことで病院と行政が結びつく力強いメッセージとなる。協定を締結することができたことで、更なる救急や一般診療レベルを上げていく。」と決意を述べました。

袋井市、掛川市、磐田市、森町、菊川市、御前崎市の行政と病院が手を携えて、医師が少ない地域でも地域住民の方が安心して医療を受けられるように励んでまいります。



▲協定を取り交わした病院長と首長ら
宮地企業長兼院長は下段中央

より良いアレルギー医療のために CAI資格取得！



▲資格取得した徳田さん、鈴木さん、
阪本さん、水野さん（左から）

今年の6月から受験が始まった、CAI（アレルギー疾患療養指導士）の記念すべき一期生として、当院の看護師4名が資格を取得しました。CAIは喘息やアトピー性皮膚炎などアレルギー疾患の治療や管理に関する専門知識を持ち、患者さまやご家族への指導スキルも兼ね備えています。

CAI資格を取得した4名の看護師が勤務する病棟では、アレルギー疾患の子どもや大人が多く入院することから、今回、皆で資格取得を目指しました。

喘息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患になったとき、いくら良い薬を処方されたとしても、正しい服用ができなければ効果は現れません。食物アレルギーとアナフィラキシーショックの危険にさらされることとなります。そこで、活躍するのがCAIなのです。「アレルギー疾患は一時的ではなく長く付き合う病気。今後、病棟にアレルギーの知識を広げ、地域の患者さまに安心してもらいたい。」と4名の看護師は意気込みを語りました。

当院は、6月にアレルギー疾患研究センターを立ち上げました。今後も地域の皆さまのアレルギー治療を支えるために、励んでまいります。

院内デイケアで昼と夜のメリハリを

高齢の方が入院する割合が増え、認知症の患者さまが入院するケースも増加しています。

高齢になると記憶障害になったり、周囲の状況を理解・判断する能力が低下することで、入院生活への適応が難しくなります。元々は自立して生活をしてきた方であっても、病気や治療によるストレスや入院による環境の変化などから一時的に認知機能が低下し、混乱や活動量、発語量の減少などを引き起こしやすくなります。入院生活ではこのようなことを予防し、症状を最小限にするためのケアが重要です。

そのケアの一環として、当院では2018年から平日の午前中に病院の中でデイケアを開催しています。院内デイケアでは、ラジオ体操をしたり、“青い山脈”や“リンゴの唄”といった懐かしの歌を歌ったり、輪投げや風船投げなどのゲームをしたり、カレンダー作りなど季節に合わせた作品製作、脳トレなどを1時間程度行ったりしています。今年から当院の仲間になったロボット犬aiboの「アイちゃん」も一緒に参加し、患者さまからも大人気です。

毎日一定の時間に活動することで生活のリズムが整い、楽しみを持つことは脳が活性化し、認知機能低下の予防や改善を図ることにつながります。参加したほとんどの患者さまは笑顔で楽しんでくださり、認知機能低下の予防や改善をされた方も多く、ケアの効果が得られています。

6階西病棟 認知症看護認定看護師 寺田 千尋



▲風船投げをしている様子



▲みんなの人気者、ロボット犬「アイちゃん」

お知らせ - information -

2022年度採用職員募集

募集内容

職種	採用人数	申込締切日	試験日	採用日
看護師	若干名	2022年 1月7日(金)	2022年 1月20日(木)	2022年 4月1日(金)
言語聴覚士	若干名			
診療放射線技師	若干名			
社会福祉士	若干名			
事務職員	若干名			

試験内容

看護師、言語聴覚士、診療放射線技師：作文試験、適性検査、面接試験
社会福祉士、事務職員：上記に加え、筆記試験、集団討論を実施

1次試験合格者は、2次試験として面接試験を実施

受付期間

2021年12月1日(水)～2022年1月7日(金)

◆詳細は
当院ホームページを
ご覧ください。



10月の 診療実績

1日あたりの患者数		病床利用率	69.7%
入院	349人	平均在院日数	9.1日
外来	1,100人	手術件数	463件
紹介率	85.8%	救命救急センター受診者数	1,246人
逆紹介率	91.3%	救急搬送件数	468件



病院だより「きんもくせい」は、中東遠総合医療センター、掛川・袋井両市役所及び一部の市内公共施設にて無料で配布しております。

ホームページ <https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp/>

過去の病院だよりをホームページでご覧いただけます。 [中東遠](#) [Q検索](#)

スマートフォン・タブレットからアクセスする際にはQRコードをご利用ください



〒436-8555
掛川市菖蒲ヶ池1番地の1
TEL 0537-21-5555

